

特定の研究計画書によらない学術論文

次に示す論文は特定の研究計画書に基づく調査結果ではなく、おおむね外部の研究者との共同研究によるもの、あるいは放影研を著者とする論文、ならびに予備調査に基づく論文である。従って、特定の調査研究課題の章に含めていないので、ここで部別にリストした。

理事および主席研究員

- ◆ 大久保利晃：(財)放射線影響研究所の課題と役割。広島県内科会誌 2009 (October); No.10:58-9.
- ◆ 大久保利晃 (編)：平成 20 年度厚生労働省委託事業 原爆症調査研究事業報告書。2009 (July), 81 p.
- ◆ Shore RE: Low-dose radiation epidemiology studies: Status and issues. Health Physics 2009 (November); 97(5):481-6.

印刷中の論文

- ✂ Boice JD, Hendry JH, Nakamura N, Niwa O, Nakamura S, Yoshida K: Low-dose-rate epidemiology of high background radiation areas. Radiation Research.
- ✂ 中村 典：原爆被爆者の疫学調査と現代世界とのかかわり—放射線発がん機構の俯瞰的考察。広島医学 (第 50 回原子爆弾後障害研究会講演集、平成 21 年)
- ✂ 大久保利晃：放射線影響研究所の将来構想。広島医学 (第 50 回原子爆弾後障害研究会講演集、平成 21 年)
- ✂ Rühm W, Wallner A, Cullings HM, Egbert SD, El-Faramawy N, Faestermann T, Kaul DC, Knie K, Korschinek G, Nakamura N, Roberts JA, Rugel G: ^{41}Ca in tooth enamel. Part II: A means for retrospective biological neutron dosimetry in atomic bomb survivors. Radiation Research.
- ✂ Wallner A, Rühm W, Rugel G, Nakamura N, Arazi A, Faestermann T, Knie K, Maier HJ, Korschinek G: ^{41}Ca in tooth enamel. Part I: A biological signature of neutron exposure in atomic-bomb survivors. Radiation Research.

臨床研究部 (広島)

- ◆ Hagino H, Furukawa K, Fujiwara S, Okano T, Katagiri H, Yamamoto K, Teshima R: Recent trends in the incidence and lifetime risk of hip fracture in Tottori, Japan. Osteoporosis International 2009 (April); 20(4):543-8.
- ◆ Hagino H, Nakamura T, Fujiwara S, Oeki M, Okano T, Teshima R: Sequential change in quality of life for patients with incident clinical fractures: A prospective study. Osteoporosis International 2009 (May); 20(5):695-702.
- ◆ Japan Arteriosclerosis Longitudinal Study (JALS) Group (RERF: Yamada M): Four blood pressure indexes and the

risk of stroke and myocardial infarction in Japanese men and women: A meta-analysis of 16 cohort studies. Circulation 2009 (April); 119(14):1892-8.

- ◆ Kumamoto K, Nakamura T, Suzuki T, Gorai I, Fujinawa O, Ohta H, Shiraki M, Yoh K, Fujiwara S, Endo N, Matsumoto T: Validation of the Japanese osteoporosis quality of life questionnaire. Journal of Bone and Mineral Metabolism 2010 (January); 28(1):1-7.
- ◆ Ohishi W, Chayama K: Current treatment for chronic hepatitis B in Japan. Clinical Journal of Gastroenterology 2009 (October); 2(5):325-30.
- ◆ 大石和佳、柘植雅貴、茶山一彰：HBV 遺伝子型と B 型慢性肝炎の予後。臨牀消化器内科 2009 (June); 24(6):653-9.

印刷中の論文

- ✂ 大石和佳、茶山一彰：C 型肝炎ウイルス RNA および核酸検査。日本臨牀。

臨床研究部 (長崎)

印刷中の論文

- ✂ Ishii R, Imaizumi M, Ide A, Sera N, Ueki I, Horie I, Ando T, Usa T, Ejima E, Ashizawa K, Eguchi K: A long-term follow-up of serum myeloperoxidase anti-neutrophil cytoplasmic antibodies (MPO-ANCA) in patients with Graves disease treated with propylthiouracil. Journal of Endocrinology.
- ✂ Hida A, Imaizumi M, Sera N, Akahoshi M, Soda M, Maeda R, Nakashima E, Nakamura H, Ida H, Kawakami A, Eguchi K: Association of human T lymphotropic virus type I with Sjögren syndrome. Annals of the Rheumatic Diseases.
- ✂ 田崎美和子、山下由美子、渡辺祐子、光岡智子、福井光子、山崎愛子、飛田あゆみ、赤星正純、川上 純、江口勝美：シルマーテスト、サクソンテストにおよぼす検査手技および室内環境の影響についての考察。看護技術。

遺伝学部

- ◆ Kodaira M, Ryo H, Kamada N, Furukawa K, Takahashi N, Nakajima H, Nomura T, Nakamura N: No evidence of increased mutation rates at microsatellite loci in offspring of

A-bomb survivors. Radiation Research 2010 (February); 173(2):205–13. (RR 9-09)

放射線生物学／分子疫学部

◆ Asia Pacific Cohort Studies Collaboration (RERF: Nakachi K): Blood pressure is a major risk factor for renal death: An analysis of 560 352 participants from the Asia-Pacific region. Hypertension 2009 (September); 54(3):509–15.

◆ Hattori N, Hayashi T, Nakachi K, Ichikawa H, Goto C, Tokudome Y, Kuriki K, Hoshino H, Shibata K, Yamada N, Tokudome M, Suzuki S, Nagaya T, Kobayashi M, Tokudome S: Changes of ROS during a two-day ultra-marathon race. International Journal of Sports Medicine 2009 (June); 30(6):426–9.

◆ Kawasaki A, Hayashi T, Nakachi K, Trosko JE, Sugihara K, Kotake Y, Ohta S: Modulation of connexin 43 in rotenone-induced model of Parkinson's disease. Neuroscience 2009 (April); 160(1):61–8.

◆ Shikauchi Y, Saiura A, Kubo T, Niwa Y, Yamamoto J, Murase Y, Yoshikawa H: SALL3 interacts with DNMT3A and shows the ability to inhibit CpG island methylation in hepatocellular carcinoma. Molecular and Cellular Biology 2009 (April); 29(7):1944–58.

◆ Tamakoshi A, Suzuki K, Lin YS, Ito Y, Yagyu K, Kikuchi S, Watanabe Y, Inaba Y, Tajima K, Nakachi K: Cigarette smoking and serum soluble Fas levels: Findings from the JACC study. Mutation Research 2009 (September-October); 679(1-2):79–83.

◆ Yuasa Y, Nagasaki H, Akiyama Y, Hashimoto Y, Takizawa T, Kojima K, Kawano T, Sugihara K, Imai K, Nakachi K: DNA methylation status is inversely correlated with green tea intake and physical activity in gastric cancer patients. International Journal of Cancer 2009 (June); 124(11):2677–82.

統計部

◆ Furukawa K, Cologne JB, Shimizu Y, Ross NP: Predicting future excess events in risk assessment. Risk analysis 2009 (June); 29(6):885–99. (RR 6-08)

◆ Heidenreich WF, Cullings HM: Use of the individual data of the a-bomb survivors for biologically based cancer models. Radiation and Environmental Biophysics 2010 (March); 49(1):39–46.

◆ Yu CL, Tucker MA, Abramson DH, Furukawa K, Seddon

JM, Stovall M, Fraumeni JF, Kleinerman RA: Cause-specific mortality in long-term survivors of retinoblastoma. Journal of the National Cancer Institute 2009 (April); 101(8):581–91.

印刷中の論文

✂ Cologne JB, Cullings HM, Furukawa K, Ross NP: Attributable risk for radiation in the presence of other risk factors. Health Physics.

特定の研究計画書によらない学会発表

次の学会発表は特定の研究計画書に関連していないが予備調査に基づくもの、また外部機関との共同研究あるいは全般的な研究情報である。部別にリストした。

理事および主席研究員

- ❖ Shore RE。低／中程度の放射線量における白内障リスク：百聞は一見にしかず（ただし見ないで信じることもできる）。「電離放射線の最新の健康への影響」会議、2009年5月4－6日。米国ワシントン
- ❖ Shore RE。疫学的観点からの放射線量推定に関する考察。「線量の不確実性が線量反応に及ぼす影響」ワークショップ、2009年5月8日。米国ワシントン
- ❖ Shore RE。原爆被爆者における心臓血管疾患に関する調査。第2回アジア放射線研究会議、2009年5月17－20日。韓国ソウル
- ❖ 中村 典。原爆被爆者の疫学調査と現代世界とのかかわり。第50回原子爆弾後障害研究会、2009年6月7日。広島
- ❖ 大久保利晃。放射線影響研究所の将来構想。第50回原子爆弾後障害研究会、2009年6月7日。広島
- ❖ Double EB。原爆傷害調査委員会（ABCC）／放射線影響研究所（放影研）および日本人原爆被爆者によるヒトの放射線疫学研究への貢献。第55回放射線影響学会・若手研究者（SIT）ワークショップ、2009年10月3日。米国ジョージア州サバンナ
- ❖ 大久保利晃。放射線影響研究所の業績と将来像。ラマツチーニコレギウム年次総会、2009年10月24－25日。イタリア、カルピ

臨床研究部（広島）

- ❖ 鎌石和男。原子力事業所周辺の地域住民とのリスクコミュニケーション—原爆被爆者疫学調査から。茨城県緊急被ばく医療関連情報連絡会、2009年4月18日。水戸

臨床研究部（長崎）

- ❖ 岡 典子。尿沈渣検査の標準化の現状と今後—赤血球形態について。第44回九州医学検査学会、2009年10月10－11日。佐世保

放射線生物学／分子疫学部

- ❖ 多賀正尊、伊藤玲子、三角宗近、中地 敬、安井 弥、濱谷清裕。原爆被爆者で発生した非小細胞肺癌におけるがん関連遺伝子のDNAメチル化。日本放射線影響学会第52

回大会、2009年11月11－13日。広島

疫学部（広島）

- ❖ 野中美佑。正則化局所尤度法に基づくロジスティック判別における変数選択。日本数学会2009年度秋季総合分科会、2009年9月24－27日。大阪
- ❖ 小笹晃太郎。観察研究によるインフルエンザ予防接種の有効性評価の課題。第68回日本公衆衛生学会総会、2009年10月21－23日。奈良
- ❖ 小笹晃太郎。放射線の長期健康影響の疫学的評価。平成21年度バイオ統計学セミナー、2010年3月12日。熊本県南小国町

統計部

- ❖ Cullings HM、Jacquez G、Lawson A、Patil G。広島・長崎における原爆放射線影響のホットスポットに関する生物地理情報学的研究と公衆衛生政策。2009年米国統計学会合同統計会議、2009年8月1－6日。米国ワシントン

情報技術部

- ❖ 片山博昭。日本における地域がん登録標準データベースシステムの構築。第31回国際がん登録協議会学術総会、2009年6月3－5日。米国ルイジアナ州ニューオーリンズ

所内学術講演およびセミナー

2009年4月1日－2010年3月31日

本年度下記の口頭発表（日付順）が研究所内外の研究者によって放影研広島研究所で行われた。

古川恭治 放射線影響研究所統計部副主任研究員、第247回広島統計談話会、演題「測定誤差を持つ変数を含む回帰モデルにおける線量反応推定のバイアス修正法の比較」4月10日

川崎 良 オーストラリア、メルボルン大学眼科研究センター網膜評価室臨床・研究フェロー／評価センター管理者、演題「心血管疾患の生物指標としての網膜細血管兆候」4月15日

樋口勇夫 広島大学大学院工学研究科複雑システム工学専攻助教、第248回広島統計談話会、演題「一般化されたoverall生存関数の最大値と最小値」6月5日

Janko Nikolich-Zugich 米国アリゾナ大学医学部免疫生物学科長、アリゾナ加齢研究センター共同センター長、医学研究分野 Elizabeth Bowman 記念教授、演題「免疫老化におけるT細胞機能と恒常性：原因と影響」6月19日（特別講演）

浅野 晃 広島大学大学院工学研究科情報工学専攻教授、第249回広島統計談話会、演題「マセマティカル・モルフロジーとMDL原理に基づくテクスチャ解析」6月26日

中村慎吾 環境技術研究所生物影響研究部研究員、演題「低線量率γ線連続照射マウスにおける組織の脂肪化」7月3日

濱崎幹也 放射線影響研究所放射線生物学／分子疫学部免疫疫学研究室主任技師、演題「原爆被爆者末梢血Tリンパ球における染色体不安定性」8月20日

Ravindra Khattree 米国オークランド大学数学統計学部教授、生物医学研究所調査参加メンバー、演題「世界のメンタルヘルス関連データの解析：メキシコにおける喫煙とメンタルヘルス」9月7日

野中美佑 放射線影響研究所疫学部来所研究員、第250回広島統計談話会、演題「情報量規準に基づく相対リスクモデルの選択と寿命調査集団データへの適用」9月11日

若木宏文 広島大学大学院理学研究科数学専攻教授、第251回広島統計談話会、演題「共分散構造に関する検定統計量の検出力の局所対立仮説の下での漸近展開」10月30日

Robert D. Abbott 米国バージニア大学医学系大学院生物統計学・疫学部教授、演題「日中の過剰な眠気症状とパーキンソン病罹患率：ホノルル－アジア加齢調査に基づく所見」11月16日

加藤賢悟 広島大学大学院理学研究科数学専攻助教、第252回広島統計談話会、演題「分位点回帰における漸近共分散行列の推定について」12月4日

Wan-Ling Hsu 放射線影響研究所統計部研究員、第253回広島統計談話会、演題「放射線、炎症、がん発生率への同時モデルの応用」12月18日

梶村順子 安田女子大学薬学部薬物治療学助手、演題「Rev1過剰発現による突然変異生成ならびに腫瘍発生の生体内および試験管内研究」1月20日

井上永介 北里大学大学院薬学研究科臨床統計専攻学生、第254回広島統計談話会、演題「変化点モデルを用いた関節リウマチ患者の疾患活動性と総死亡の解析」2月5日

Peter W. Laird 米国南カリフォルニア大学医学部エピゲノムセンター所長、演題「がんのエピゲノム：起源と応用」3月17日（特別講演）

Gordon K. Livingston 米国オークリッジ科学教育研究所／放射線緊急援助センター生物学的線量推定細胞遺伝学研究室技術部長、演題「放射線被曝事故における緊急線量評価をサポートするインターネット利用」3月24日

Horst Romm ドイツ連邦放射線防護庁生物学的線量推定研究室長、演題「ドイツにおける生物学的線量推定の現状と大規模被曝事故に対する準備活動」3月24日

放影研研究懇話会（2009 年度）

放影研研究懇話会（コロキウム）は、正式なセミナーではなく、主として現在進行中あるいは予備的研究について発表し、所内研究者からの建設的意見を得ることを目的とする。

古川恭治 統計部副主任研究員、演題「原爆被爆者の肺がんリスクにおける放射線と喫煙の相互効果」4月17日

Dale L. Preston 米国 HiroSoft International Corporation 上級研究員、演題「組織学的なサブタイプ別の肺がんと放射線影響」4月17日

野田朝男 遺伝学部細胞遺伝学研究室長、演題「放射線により生じる直せない dsb(γ H2AX foci) の消長キネティックとその生物学的効果」5月15日

伊藤玲子 放射線生物学／分子疫学部細胞生物学研究室研究員、演題「被爆者大腸がん組織の免疫組織化学的検討」7月17日

鎌石和男 臨床研究部副部長、演題「被爆者における緑内障」8月21日

坂田 律 疫学部研究員、演題「良性婦人科系疾患に対する放射線治療を受けた女性のコホートにおけるがん死亡率追跡延長結果」9月18日

笠置文善 疫学部副部長、演題「胎内被爆者の死亡率」9月18日

Roy E. Shore 副理事長・研究担当理事、演題「放影研の方法論的課題と提言」10月23日

中島栄二 統計部副部長、演題「Merriam-Focht 法による白内障データ 2000－2002 年の再解析」11月20日

Wan-Ling Hsu 統計部研究員、演題「同時モデルの応用－放射線、炎症、がん発生率」11月20日

小平美江子 遺伝学部遺伝生化学研究室長、演題「原爆放射線の遺伝的影響：生殖細胞におけるマイクロサテライト突然変異率を調べた小規模なスクリーニングの結果」12月18日

吉田健吾 放射線生物学／分子疫学部免疫学研究室研究員、演題「原爆被爆者における免疫機能の個人差への *NKG2D* 遺伝子型の影響」1月29日

放影研職員等の受賞

2009 年 4 月 1 日－2010 年 3 月 31 日

立川佳美 広島臨床研究部研究員が広島大学医学部分子内科学教授賞を受賞。4月22日

龍角洋行 広島臨床研究部臨床検査科主査が広島県優良危険物取扱者表彰を受賞。5月20日

今泉美彩 長崎臨床研究部放射線科長が長崎大学医学部より第26回角尾学術賞を受賞。5月25日

放影研の一般向けパンフレット「わかりやすい放射線と健康の科学」が広島広告協会主催の第30回広島広告企画制作賞パンフレット部門で銀賞を受賞。6月8日

地域がん登録全国協議会第18回総会研究会（新潟）で、**杉山裕美** 広島疫学部研究員が学術ポスター優秀賞を受賞。また、**山田豊信** 長崎疫学部腫瘍組織登録室付課長が道府県部門ポスター優秀賞を受賞。9月3－4日

韓国ソウルで開催された第3回 Asian Society Against Dementia 国際会議で、**山田美智子** 広島臨床研究部副部長が Best Scientist Award を受賞。10月11－13日

平成21年度原子力安全管理功労表彰において、**鎌石和男** 広島臨床研究部副部長が文部科学大臣賞を受賞。11月6日

平成 21 年度 外部資金研究一覧表

外部機関名称	件数	研究資金（概算）合計
厚生労働省	19	¥30,900,000
文部科学省	14	¥33,250,000
独立行政法人 医薬基盤研究所	1	¥7,000,000
公益信託 日本動脈硬化予防研究基金	1	¥2,000,000
喫煙科学研究財団	1	¥2,000,000
財団法人 高松宮妃癌研究基金	1	¥2,000,000
米国立がん研究所（NCI）契約	1	¥29,186,323
米国立アレルギー感染症研究所	1	¥14,824,251
総 合 計	39	¥121,160,574

注 1) 間接費を含む。

注 2) 一部分担研究者の補助金を含む。

注 3) 複数の部の研究員が一つの包括的な外部資金によって個別に資金を受領している場合が幾つかある。
このような場合、これら個別の資金を複数の外部資金として数えている。

平成 21 年度 外部資金研究一覧表

研究のタイトル	研究グループのナームまたは担当の研究代表者	放影研における研究分担者	期 間	研究資金 (実績)
臨床研究部 (広島) 屋内ラドンによる健康影響評価および対策に関する研究	厚生労働省 厚生労働科学研究費補助金「健康安全・危機管理対策総合研究事業」研究代表者 鈴木 元 国際医療福祉大学クリニック教授	藤原 佐枝子	2009 年 4 月 1 日 - 2010 年 3 月 31 日	交通費等の現物支給。
膝痛・腰痛・骨折に関する高齢者介護予防のための地域代表性を有する大規模住民コホート追跡研究	厚生労働省 厚生労働科学研究費補助金「長寿科学総合研究事業」研究代表者 吉村 典子 東京大学大学院客員准教授	藤原 佐枝子	2009 年 4 月 1 日 - 2010 年 3 月 31 日	¥4,500,000
高齢者（認知症等の疾患等を有する者を含む）における運動器疾患（骨折、関節疾患）にかかわる調査研究	厚生労働省 長寿医療研究委託事業研究代表者 原田 敦 国立長寿医療センター病院部長	藤原 佐枝子	2009 年 4 月 1 日 - 2010 年 3 月 31 日	¥8,500,000
骨質を標的とした骨折予知診断および治療薬の開発	独立行政法人 医薬基盤研究所「保健医療分野における基礎研究推進事業」総括研究代表者 池田 恭治 国立長寿医療センター研究所部長 研究代表者 藤原 佐枝子 放射線影響研究所臨床研究部長	大石 和佳	2009 年 4 月 1 日 - 2010 年 3 月 31 日	¥7,000,000
大規模コホート共同研究による生活習慣病発症予防データベース構築とその高度利用に関する研究	厚生労働省 厚生労働科学研究費補助金「循環器疾患等生活習慣病対策総合研究事業」研究代表者 上島 弘嗣 滋賀医科大学生活習慣病予防センター特任教授	山田 美智子	2009 年 4 月 1 日 - 2010 年 3 月 31 日	¥2,200,000
保健指導への活用を前提としたメタボリックシンドロームの診断・管理のエビデンス創出のための縦断・横断研究	厚生労働省 厚生労働科学研究費補助金「循環器疾患等生活習慣病対策総合研究事業」研究代表者 門脇 孝 東京大学大学院教授	山田 美智子 立川 佳美	2009 年 4 月 1 日 - 2010 年 3 月 31 日	¥2,400,000
成人健康調査集団における動脈硬化・認知症ならびに ADL の評価	公益信託 日本動脈硬化予防研究基金「平成 21 年度研究助成」研究組織委員長 上島 弘嗣 滋賀医科大学生活習慣病予防センター特任教授 研究代表者 山田 美智子 放射線影響研究所臨床研究部副部長	藤原 佐枝子	2009 年 4 月 1 日 - 2010 年 3 月 31 日	¥2,000,000 広島大学の共同研究者への配分額は、上記の研究資金に含まれている。
肝細胞癌のリスク要因としての生活習慣とインスリン抵抗性に関する症例対照研究	文部科学省 科学研究費補助金「基盤研究 (C)」研究代表者 大石 和佳 放射線影響研究所臨床研究部臨床検査科長	藤原 佐枝子	2009 年 4 月 1 日 - 2010 年 3 月 31 日	直接経費 ¥1,100,000 間接経費 ¥330,000

平成 21 年度 外部資金研究一覧表

研究のタイトル	研究グループの名前と場所および 委託組織のチーフまたは担当の研究代表者	放影研における研究分担者	期 間	研究資金 (実績)
遺伝学部 放射線被曝事故に備えた染色体ネット ワークの構築	文部科学省 科学研究費補助金 主任研究者 吉田 光明 独立行政法人放射線医学総合研究所 緊急被ばく医療研究センター被ばく線量評価部生物線量評価 室長	児玉 喜明	2009 年 6 月 15 日 - 2010 年 6 月 14 日	消耗品の現物支 給。 (¥700,000 相当)
個体内における電離放射線誘発突然変異 成立過程の解明	文部科学省 科学研究費補助金 「基盤研究 (S)」 主任研究者 三谷 啓志 東京大学大学院新領域創成科学研究 科教授	野田 朝男	2009 年 4 月 1 日 - 2010 年 3 月 31 日	直接経費 ¥3,000,000 間接経費 ¥900,000
ヒト女性における放射線被ばくの遺伝的 影響評価モデル	文部科学省 科学研究費補助金 「基盤研究 (B)」 主任研究者 浅川 順一 放射線影響研究所遺伝学部研究員		2009 年 4 月 1 日 - 2010 年 3 月 31 日	直接経費 ¥4,600,000 間接経費 ¥1,380,000
放射線生物学／分子疫学部 発がんと免疫の分子疫学コホート研究	文部科学省 科学研究費補助金 「特定領域研究」 主任研究者 中地 敬 放射線影響研究所顧問およびプロジェ クト代表研究者	楠 洋一郎 林 奉権 濱谷 清裕	2009 年 4 月 1 日 - 2010 年 3 月 31 日	¥7,000,000 研究分担者への 配分額は、上記 の研究資金に含 まれている。
原爆被曝者コホートにおけるヒト造血リ ンパ系の遺伝的不安定性と放射線感受性 の評価	文部科学省 科学研究費補助金 「基盤研究 (B)」 主任研究者 楠 洋一郎 放射線影響研究所放射線生物学／分 子疫学部部長代理	今井 一枝 吉田 健吾 濱崎 幹也 (遺伝学部)	2009 年 4 月 1 日 - 2010 年 3 月 31 日	直接経費 ¥2,800,000 間接経費 ¥840,000 研究分担者への 配分額は、上記 の研究資金に含 まれている。
免疫学的加齢と細胞内活性酸素産生に及 ぼす放射線被曝の影響	文部科学省 科学研究費補助金 「萌芽研究」 主任研究者 林 奉権 放射線影響研究所放射線生物学／分子 疫学部免疫学研究室長	中地 敬 (放影研顧問およびブ ロジェクト代表研究者) 吉田 健吾	2009 年 4 月 1 日 - 2010 年 3 月 31 日	¥900,000 研究分担者への 配分額は、上記 の研究資金に含 まれている。

平成 21 年度 外部資金研究一覧表

研究のタイトル	委託組織の名前と場所および 研究グループのチーフまたは担当の研究代表者	放影研における研究分担者	期 間	研究資金 (実績)
放射線生物学／分子疫学部 炎症関連疾患リスクに関与する免疫遺伝 的要因と環境の分子疫学研究	文部科学省 科学研究費補助金 「基盤研究 (B)」 主任研究者 林 泰権 放射線影響研究所放射線生物学／分子 疫学部免疫学研究室長	連携研究者 中地 敬 (放影研 顧問およびプロジェクト代表 研究者) 楠 洋一郎 小川 貴彦	2009 年 4 月 1 日 - 2010 年 3 月 31 日	直接経費 ¥5,000,000 間接経費 ¥1,500,000
原爆被爆者に発生した甲状腺がんの分子 腫瘍学的研究	文部科学省 科学研究費補助金 「基盤研究 (C)」 主任研究者 濱谷 清裕 放射線影響研究所放射線生物学／分 子疫学部細胞生物学研究室長	伊藤 玲子 連携研究者 早田 みどり (長 崎疫学部)	2009 年 4 月 1 日 - 2010 年 3 月 31 日	直接経費 ¥700,000 間接経費 ¥210,000 研究分担者への 配分額は、上記 の研究資金に含 まれている。
原爆被爆者に発生した肺がんの分子腫瘍 学的研究	文部科学省 科学研究費補助金 「若手研究 (B)」 主任研究者 多賀 正尊 放射線影響研究所放射線生物学／分 子疫学部細胞生物学研究室研究員		2009 年 4 月 1 日 - 2010 年 3 月 31 日	直接経費 ¥1,300,000 間接経費 ¥390,000
胃の前がん病変およびがんの発生に関与 する生体因子と生活習慣要因の探索	文部科学省 科学研究費補助金 「特定領域研究」 主任研究者 湯浅 保仁 東京医科歯科大学大学院医歯学総合 研究科教授	連携研究者 今井 一枝	2009 年 4 月 1 日 - 2010 年 3 月 31 日	連携研究者のた め、研究資金の 配分なし。
放射線障害に基づく固形がん発生の分子 機構の解明とその予防・治療への応用に 関する研究	厚生労働省 厚生労働科学研究費補助金 「第 3 次がん総合戦略研究事業」 研究代表者 安井 弥 広島大学大学院医歯薬学総合研究科放 射線ゲノム医科学講座教授	林 泰権 楠 洋一郎 濱谷 清裕	2009 年 4 月 1 日 - 2010 年 3 月 31 日	¥5,000,000
一般住民コホートで観察された喫煙の生 体影響と生活習慣病の分子疫学研究	喫煙科学研究財団 主任研究者 林 泰権 放射線影響研究所放射線生物学／分子 疫学部免疫学研究室長		2009 年 4 月 1 日 - 2010 年 3 月 31 日	¥2,000,000

平成 21 年度 外部資金研究一覧表

研究のタイトル	委託組織の名前と場所および 研究グループのチーフまたは担当の研究代表者	放影研における研究分担者	期 間	研究資金 (実績)
放射線生物学／分子疫学部 放射線発がんの分子機構—原爆被爆者の 結腸がんおよび甲状腺乳頭癌について	財団法人 高松宮妃癌研究基金 主任研究者 濱谷 清裕 放射線影響研究所放射線生物学／分 子疫学部細胞生物学研究室長	伊藤 玲子 中地 敬 (放影研顧問およびブ ロジェクト代表研究者)	2009 年 4 月 1 日－ 2010 年 3 月 31 日	¥2,000,000
原爆被爆者における免疫老化とその他の 放射線被曝後影響の調査	米国国立アレルギー感染症研究所 主任研究者 中地 敬 放射線影響研究所顧問およびブロジェ クト代表研究者 共同主任研究者 楠 洋一郎 放射線影響研究所放射線生物学 ／分子疫学部部長代理 共同主任研究者 林 泰権 放射線影響研究所放射線生物学／ 分子疫学部免疫学研究室長	Evan B. Douple (主席研究員) 今井 一枝 吉田 健吾 伊藤 玲子 藤原 佐枝子 (臨床研究部) 大石 和佳 (臨床研究部) 小笹 晃太郎 (疫学部) 古川 恭治 (統計部) 三角 宗近 (統計部)	2009 年 10 月 1 日－ 2014 年 9 月 30 日	直接経費 ¥10,316,113 間接経費 ¥4,508,138
疫学部 (広島) スギ花粉症の免疫疫学的研究	文部科学省 科学研究費補助金 「基盤研究 (C)」 主任研究者 小笹 晃太郎 放射線影響研究所疫学部部長		2009 年 4 月 1 日－ 2010 年 3 月 31 日	直接経費 ¥100,000 間接経費 ¥30,000
大規模コホート研究による稀少がんと生 活習慣との関連の検討	文部科学省 科学研究費補助金 「特定領域研究」 主任研究者 玉腰 暁子 愛知医科大学医学部公衆衛生学教授	連携研究者 小笹 晃太郎	2009 年 4 月 1 日－ 2010 年 3 月 31 日	連携研究者のた め、研究資金の 配分なし。
インフルエンザおよび近年流行が問題と なっている呼吸器感染症の分析疫学研究	厚生労働省 厚生労働科学研究費補助金 「新型インフルエンザ等新興・再興感染症研究事業」 研究代表者 廣田 良夫 大阪市立大学大学院医学研究科教授	小笹 晃太郎	2009 年 4 月 1 日－ 2010 年 3 月 31 日	¥1,700,000
食生活・栄養素摂取状況が高齢者の健康 寿命に与える影響に関する研究：NIPPON DATA 80・90 の追跡調査	厚生労働省 厚生労働科学研究費補助金 「長寿科学総合研究事業」 研究代表者 上島 弘嗣 滋賀医科大学生活習慣病予防センター 特任教授	笠置 文善	2009 年 4 月 1 日－ 2010 年 3 月 31 日	¥250,000
放射線被曝による発がんの分子機構に関 する研究	厚生労働省 がん研究助成金 主任研究者 山下 俊一 長崎大学大学院医歯薬学総合研究科 原爆後障害医療研究施設分子診療部門分子診断分野教授	笠置 文善	2009 年 4 月 1 日－ 2010 年 3 月 31 日	¥1,500,000

平成 21 年度 外部資金研究一覧表

研究のタイトル	委託組織の名前と場所および 研究グループのチーフまたは担当の研究代表者	放影研における研究分担者	期 間	研究資金 (実績)
疫学部 (広島) 屋内ラドンによる健康影響評価および対策に関する研究	厚生労働省 厚生労働科学研究費補助金 「健康安全・危機管理対策総合研究事業」 主任研究者 鈴木 元 国際医療福祉大学クリニック教授	笠置 文善	2009 年 4 月 1 日 - 2010 年 3 月 31 日	交通費、消耗品 費等の現物支給。
大規模コホート共同研究による生活習慣 病発症予防データベース構築とその高度 利用に関する研究	厚生労働省 厚生労働科学研究費補助金 「循環器疾患等生活習慣病対策総合研究事業」 研究代表者 上島 弘嗣 滋賀医科大学生活習慣病予防センター 特任教授	連携研究者 笠置 文善	2009 年 4 月 1 日 - 2010 年 3 月 31 日	連携研究者のた め、研究資金の 配分なし。
地域がん登録資料のがん対策およびがん 研究への活用に関する研究	厚生労働省 がん研究助成金 「地域がん登録研究班」 主任研究者 井岡 重希子 大阪府立成人病センターがん予防 情報センター企画調査課課長補佐	杉山 裕美	2009 年 4 月 1 日 - 2010 年 3 月 31 日	¥800,000
放射線障害に基づく固形がん発生の分子 機構の解明とその予防・治療への応用に 関する研究	厚生労働省 厚生労働科学研究費補助金 「第 3 次対がん総合戦略研究事業」 研究代表者 安井 弥 広島大学大学院医歯薬学総合研究科放 射線ゲノム医科学講座教授	小笹 晃太郎	2009 年 4 月 1 日 - 2010 年 3 月 31 日	¥700,000
がん罹患・死亡動向の実態把握に関する 研究	厚生労働省 厚生労働科学研究費補助金 「第 3 次対がん総合戦略研究事業」 研究代表者 祖父江 友孝 国立がんセンターがん対策情報セ ンターがん情報・統計部長	杉山 裕美	2009 年 4 月 1 日 - 2010 年 3 月 31 日	¥1,100,000
疫学部 (長崎) 地域がん登録資料のがん対策およびがん 研究への活用に関する研究	厚生労働省 がん研究助成金 「地域がん登録研究班」 主任研究者 井岡 重希子 大阪府立成人病センターがん予防 情報センター企画調査課課長補佐	早田 みどり	2009 年 4 月 1 日 - 2010 年 3 月 31 日	¥1,000,000
がん罹患・死亡動向の実態把握に関する 研究	厚生労働省 厚生労働科学研究費補助金 「第 3 次対がん総合戦略研究事業」 研究代表者 祖父江 友孝 国立がんセンターがん対策情報セ ンターがん情報・統計部長	早田 みどり	2009 年 4 月 1 日 - 2010 年 3 月 31 日	¥1,000,000

平成 21 年度 外部資金研究一覧表

研究のタイトル	委託組織の名前と場所および 研究グループのチーフまたは担当の研究代表者	放影研における研究分担者	期 間	研究資金 (実績)
情報技術部 セミパラチンスク旧核実験場近郊住民を 対象とした疫学データベース構築と健康 影響調査	文部科学省 科学研究費補助金 「基盤研究 (C)」 主任研究者 片山 博昭 放射線影響研究所情報技術部長		2009 年 4 月 1 日 - 2010 年 3 月 31 日	直接経費 ¥900,000 間接経費 ¥270,000
がん罹患・死亡動向の実態把握に関する 研究	厚生労働省 厚生労働科学研究費補助金 「第 3 次対がん総合戦略研究事業」 研究代表者 祖父江 友孝 国立がんセンターがん対策情報セ ンターがん情報・統計部長	研究協力者 片山 博昭	2009 年 4 月 1 日 - 2010 年 3 月 31 日	研究協力者のた め、研究資金の 配分なし。
その他 原爆被爆者におけるがんの疫学的研究支 援	米国国立がん研究所 (NCI) 契約 米国メリーランド州ベセスダ、米国国立がん研究所 NCI 契約 N01-CP-31012 主任研究者 見玉 和紀 放射線影響研究所主任研究員 共同主任研究者 Roy E. Shore 放射線影響研究所副理事長・ 研究担当理事	Evan B. Douple (主席研究員) 中村 典 (主席研究員) 徳岡 昭治 (放影研顧問) 笠置 文善 (疫学部) 陶山 昭彦 (長崎疫学部) 西 信雄 (疫学部) 早田 みどり (長崎疫学部) Norman P. Ross (統計部) Harry M. Cullings (統計部) Wan-Ling Hsu (統計部) 古川 恭治 (統計部) 片山 博昭 (情報技術部) 平井 裕子 (遺伝学部) 楠 洋一郎 (放射線生物学/分 子疫学部) 濱谷 清裕 (放射線生物学/分 子疫学部) 藤原 佐枝子 (臨床研究部) 見玉 和紀 (主席研究員)	2008 年 12 月 1 日 - 2013 年 11 月 30 日	直接経費 ¥20,310,597 間接経費 ¥8,875,726
食生活・栄養素摂取状況が高齢者の健康 寿命に与える影響に関する研究: NIPPON DATA 80・90 の追跡調査	厚生労働省 厚生労働科学研究費補助金 「長寿科学総合研究事業」 主任研究者 上島 弘嗣 滋賀医科大学生活習慣病予防センター 特任教授		2009 年 4 月 1 日 - 2010 年 3 月 31 日	¥250,000
総 合 計				¥121,160,574

平成 21 年度 共同研究一覧表 (外部資金研究以外)

研究のタイトル	共同研究のグループのチーフ	放影研における研究者	放影研以外の研究者	開始年
臨床研究部 (広島) Ni-Hon-Sea (Nippon-Honolulu-Seattle) プログラム (認知症の罹患率と発生率)	山田 美智子	笠置 文善 (疫学部) 藤原 佐枝子	鈴木 元 (国際医療福祉大学クリニック) 佐々木 英夫 (広島原爆障害対策協議会) 三森 康世 (広島国際大学) White L (ホノルル加齢調査) Larson E (米国シアトル保健協同組合健康調査センター)	1992
原爆被爆者における眼科調査 (成人健康調査 [AHS] 白内障調査)	皆本 敦 (みなもと眼科クリニック)	中島 栄二 (統計部) 鎌石 和男 飛田 あゆみ (長崎臨床研究部) 藤原 佐枝子 赤星 正純 (長崎臨床研究部)	横山 知子 (広島大学) 三嶋 弘 (広島鉄道病院) 北岡 隆 (長崎大学)	2000
日本人原爆被爆者集団における乳がんおよび子宮内膜がんのネスティッド症例対照研究	鎌石 和男	中地 敬 (放影研顧問およびプロジェクト代表研究者) Cologne JB (統計部) 中島 栄二 (統計部) Grant EJ (疫学部) 藤原 佐枝子 赤星 正純 (長崎臨床研究部)	Sharp GB (米国国立アレルギー・感染症研究所) 江口 英孝 (埼玉医科大学) 和泉 志津恵 (大分大学) Key TJ (英国インペリアルがん研究基金) Stevens RG (米国コネチカット大学保健センター) Land CE (米国国立がん研究所)	2002
被爆二世における眼科調査	皆本 敦 (みなもと眼科クリニック)	中島 栄二 (統計部) 鎌石 和男 飛田 あゆみ (長崎臨床研究部) 藤原 佐枝子 赤星 正純 (長崎臨床研究部)	横山 知子 (広島大学) 三嶋 弘 (広島鉄道病院) 北岡 隆 (長崎大学)	2002
一時予防における骨粗鬆症評価	Kanis J (英国シェフィールド大学)	藤原 佐枝子	De Laet C (オランダ、エラスムス大学) Melton LJ III (米国メイヨークリニック)	2003
凍結血清およびゲノム DNA を用いた萎縮性胃炎および胃がんに関する症例対照研究：胃がんに伴う慢性胃炎の新たなバイオマーカーの同定	藤原 佐枝子	Cullings HM (統計部) 大石 和佳 笠置 文善 (疫学部) 林 奉権 (放射線生物学／分子疫学部) 中地 敬 (放影研顧問およびプロジェクト代表研究者) 赤星 正純 (長崎臨床研究部)	鈴木 元 (国際医療福祉大学クリニック) 田原 榮一 (広島がんセミナー)	2004

平成 21 年度 共同研究一覧表 (外部資金研究以外)

研究のタイトル	共同研究のグループのチーフ	放影研における研究者	放影研以外の研究者	開始年
臨床研究部 (広島) 遺伝的要因は近距離被爆生存者の集団的偏りを来し得るか? 同一の遺伝的要因が 40-50 年後の AHS 対象者で高炎症状態および心筋梗塞のリスク要因となった可能性を検証する 原爆被爆者における緑内障調査	藤原 佐枝子 木内 良明 (広島大学)	大石 和佳 山田 美智子 赤星 正純 (長崎臨床研究部) Cologne JB (統計部) 中島 栄二 (統計部) 鎌石 和男 飛田 あゆみ (長崎臨床研究部) 藤原 佐枝子 赤星 正純 (長崎臨床研究部)	鈴木 元 (国際医療福祉大学クリニック) 横山 知子 (広島大学) 上松 聖典 (長崎大学) 築城 英子 (長崎大学) 北岡 隆 (長崎大学)	2005 2005
原爆被爆者における炎症とがん発生率	鎌石 和男	Hsu WL (統計部) 中島 栄二 (統計部) 立川 佳美 早田 みどり (長崎疫学部) 山田 美智子 藤原 佐枝子 Cologne JB (統計部) 赤星 正純 (長崎臨床研究部)	Little MP (英国インペリアル・カレッジ) 西 信雄 (国立健康・栄養研究所)	2005
非がん死亡における中間危険因子	William L (米国ワシントン大学)	Hsu WL (統計部) 高橋 郁乃 Cologne JB (統計部) 藤原 佐枝子 赤星 正純 (長崎臨床研究部) 児玉 和紀 (主席研究員)	Kopecky KJ (米国ワシントン大学、フレッド ハッチソンがん研究センター) Davis S (米国ワシントン大学、フレッド ハッチソンがん研究センター)	2006
AHS におけるがん以外の疾患の集積に関連するリスク因子と修飾因子: 統計データマイニング法を用いた解析	角間 辰之 (久留米大学)	Cologne JB (統計部) 古川 恭治 (統計部) Hsu WL (統計部) 山田 美智子 児玉 和紀 (主席研究員) 陶山 昭彦 (長崎疫学部) 赤星 正純 (長崎臨床研究部) 藤原 佐枝子 Ross NP (統計部)		2006

平成 21 年度 共同研究一覧表 (外部資金研究以外)

研究のタイトル	共同研究のグループのチーフ	放影研における研究者	放影研以外の研究者	開始年
臨床研究部 (広島) 放射線、炎症と放射線／炎症に誘発された疾患 に対する原因モデルの利用	Hsu WL (統計部)	中島 栄二 (統計部) 古川 恭治 (統計部) 坂田 律 (疫学部) Ross NP (統計部) 鎌石 和男 高橋 郁乃 山田 美智子 藤原 佐枝子	角間 辰之 (久留米大学) 荒木 由布子 (久留米大学)	2007
BMI と死亡率	Thun M (米国がん協会)	大石 和佳 飛田 あゆみ (長崎臨床研究部) Shore RE (副理事長兼研究担当 理事)		2008
原爆被爆者の白内障水晶体標本の保存状況の検 討およびその収集と保存	鎌石 和男	中島 栄二 (統計部) 大石 和佳 藤原 佐枝子 飛田 あゆみ (長崎臨床研究部) 赤星 正純 (長崎臨床研究部) 林 奉権 (放射線生物学／分子 疫学部) 伊藤 玲子 (放射線生物学／分 子疫学部) 中地 敬 (放影研顧問およびブ ロジェクト代表研究者)	Blakely EA (米国国立バークレイ研究所) Chang P (米国 SRI インターナショナル) 皆本 敦 (みなもと眼科クリニック) 横山 知子 (広島大学) 戸田 慎三郎 (戸田眼科) 上松 聖典 (長崎大学) 築城 英子 (長崎大学) 木内 良明 (広島大学) 北岡 隆 (長崎大学) 白井 彰 (白井眼科) Cucinotta FA (米国 NASA ジョーンソン宇宙セ ンター) Chylack LT (米国ハーバード大学)	2008
臨床研究部 (長崎) フルカタ型心電図と前立腺がんとの関係	春田 大輔 (長崎大学)	赤星 正純 飛田 あゆみ 世羅 至子 今泉 美彩 中島 栄二 (統計部)	瀬戸 信二 (長崎大学)	2007

平成 21 年度 共同研究一覧表 (外部資金研究以外)

研究のタイトル	共同研究のグループのチーフ	放影研における研究者	放影研以外の研究者	開始年
臨床研究部 (長崎) 心血管疾患と原爆放射線—危険因子集簇の観点から	世羅 至子	赤星 正純 飛田 あゆみ 今泉 美彩 中島 栄二 (統計部)	瀬戸 信二 (長崎大学)	2007
脂肪肝の発生頻度と危険因子	恒任 章 (長崎大学)	中島 栄二 (統計部) 赤星 正純		2008
潜在性甲状腺機能異常と心臓血管疾患および死亡率の関係：大規模な国際的コホート調査の個人対象者総合解析	Rodondi N (スイス、ローザンヌ大学)	今泉 美彩	Gussekloo J (オランダ、ライデン大学医学センター)	2008
心室性期外収縮の発生部位の違いにおける予後の検討	春田 大輔 (長崎大学)	中島 栄二 (統計部) 藤原 佐枝子 (広島臨床研究部) 赤星 正純		2008
早期再分極異常の発生率および予後評価の検討	春田 大輔 (長崎大学)	中島 栄二 (統計部) 赤星 正純	恒任 章 (長崎大学)	2008
被爆者における慢性腎疾患と心血管疾患との関連	恒任 章 (長崎大学)	高橋 郁乃 (広島臨床研究部) 飛田 あゆみ 世羅 至子 今泉 美彩 山田 美智子 (広島臨床研究部) 鍊石 和男 (広島臨床研究部) 大石 和佳 (広島臨床研究部) 立川 佳美 (広島臨床研究部) 中島 栄二 (統計部) Hsu WL (統計部) 三角 宗近 (統計部) 藤原 佐枝子 (広島臨床研究部) 赤星 正純		2009
遺伝学部 原爆被爆者における早発性の乳がんおよび卵巣がんにおける分子学的変化	馬淵 清彦 (米国立がん研究所) Land CE (米国立がん研究所)	平井 裕子		2001

平成 21 年度 共同研究一覧表 (外部資金研究以外)

研究のタイトル	共同研究のグループのチーフ	放影研における研究者	放影研以外の研究者	開始年
遺伝学部 ラット卵母細胞における突然変異の検出 菌エナメル質中の熱中性子線量の測定 高血圧等循環器疾患のゲノム情報の多元的意義 付けと画期的診断・治療法の開発 原爆放射線の遺伝的影響の評価：共同研究による マイクログラサライト遺伝子座での突然変異検 索の小規模試行調査 長崎の原爆被爆者から得られた歯試料の ESR 測 定	上口 勇次郎 (旭川医科大学) Rühm W (ドイツ、ミュンヘン 大学/国立環境保健研究所) 森崎 隆幸 (国立循環器病セン ター) 中島 裕夫 (大阪大学) 梁 治子 (医薬基盤研究所) Thuy LTT (大阪大学) 朝長 万左男 (長崎大学) 飯島 洋一 (長崎大学) 三根 真理子 (長崎大学) 奥村 寛 (長崎大学) 岡田 典弘 (東京工業大学) 末盛 博文 (京都大学) 島田 義也 (放射線医学総合研 究所) 島田 義也 (放射線医学総合研 究所)	浅川 順一 平井 裕子 中村 典 (主席研究員) 高橋 規郎 小平 美江子 平井 裕子 中村 典 (主席研究員) 浅川 順一 野田 朝男 児玉 喜明 浅川 順一 中地 敬 (放影研顧問およびブ ロジェクト代表研究者) 林 奉権 吉田 健吾 今井 一枝 中地 敬 (放影研顧問およびブ ロジェクト代表研究者) 林 奉権 吉田 健吾 今井 一枝	野村 大成 (大阪大学)	2003 2004 2005 2005 2005 2006 2007 2008 2009 2002 2002
放射線生物学／分子疫学部 散発性肺がんにおける遺伝子変異と遺伝的感 受性の研究 (SNP) 散発性肺がんにおける遺伝子変異と発現の研 究	清水 憲二 (岡山大学) 末岡 榮三朗 (佐賀大学) 荒金 尚子 (佐賀大学)			

平成 21 年度 共同研究一覧表 (外部資金研究以外)

研究のタイトル	共同研究のグループのチーフ	放影研における研究者	放影研以外の研究者	開始年
放射線生物学／分子疫学部 日本人集団における様々な遺伝子多型の頻度調査	吉田 輝彦 (国立がんセンター)	中地 敬 (放影研顧問およびブ ロジェクト代表研究者) 楠 洋一郎 林 奉権 吉田 健吾 今井 一枝		2002
胃がんの遺伝的感受性の研究	安井 弥 (広島大学)	林 奉権 中地 敬 (放影研顧問およびブ ロジェクト代表研究者) 伊藤 玲子 今井 一枝		2002
細胞への放射線影響における低酸素応答遺伝子 <i>HIF1α</i> の役割に関する研究	谷本 圭司 (広島大学)	中地 敬 (放影研顧問およびブ ロジェクト代表研究者) 今井 一枝	末岡 榮三朗 (佐賀大学) 荒金 尚子 (佐賀大学) 江口 英孝 (埼玉医科大学)	2002
甲状腺がん新鮮組織の収集 (広島)	濱谷 清裕	鎌石 和男 (臨床研究部) 中地 敬 (放影研顧問およびブ ロジェクト代表研究者)	武市 宣雄 (武市クリニック)	2004
原爆被爆者における甲状腺がんの研究 (広島)	濱谷 清裕	多賀 正尊 伊藤 玲子	有廣 光司 (広島大学) 林 雄三 (安佐市民病院)	2002
細胞膨化致死毒素による抹消リンパ球アポトー シス誘導の研究	管井 基行 (広島大学) 小原 勝 (広島大学)	楠 洋一郎 林 奉権 中地 敬 (放影研顧問およびブ ロジェクト代表研究者)	京泉 誠之 (安田女子大学)	2001
放射線と抗がん剤の組み合わせによるアポトー シス誘導におけるギャップ結合の役割に関する 研究	小川 貴彦 (県立広島病院) 林 奉権	中地 敬 (放影研顧問およびブ ロジェクト代表研究者) 吉田 健吾	得能 正英 (得能クリニック) 吾郷 里華 (広島大学) 頼岡 徳在 (広島大学) Chang CC (米国ミシガン州立大学) Trosko JE (米国ミシガン州立大学)	1998

平成 21 年度 共同研究一覧表 (外部資金研究以外)

研究のタイトル	共同研究のグループのチーフ	放影研における研究者	放影研以外の研究者	開始年
放射線生物学／分子疫学部 遺伝子改変マウスの TCR 遺伝子および HPR1 遺伝子変異の解析	豊島 めぐみ (広島大学原爆放射線医科学研究所) 習 陽 (広島大学原爆放射線医科学研究所)	楠 洋一郎 中地 敬 (放影研顧問およびプロジェクト代表研究者)	神谷 研二 (広島大学原爆放射線医科学研究所)	2004
散発性胃癌における遺伝子メチル化の役割の研究	湯浅 保仁 (東京医科歯科大学)	今井 一枝 中地 敬 (放影研顧問およびプロジェクト代表研究者)		2003
散発性乳がんの発生・進展の分子生物学的研究	林 慎一 (東北大学)	中地 敬 (放影研顧問およびプロジェクト代表研究者) 今井 一枝 林 奉権	江口 英孝 (埼玉医科大学)	2002
がん細胞のアポトーシスにおける細胞間コミュニケーションの役割の研究	林 奉権		吾郷 里華 (広島大学) 小川 貴彦 (県立広島病院) 頼岡 徳在 (広島大学)	2005
原爆被爆者に発生したがんの組織試料収集	楠 洋一郎	濱谷 清裕 多賀 正尊 伊藤 玲子	安井 弥 (広島大学)	2004
パーキンソン病発生における病因物質の役割の研究	太田 茂 (広島大学) 河野 麻実 (広島大学)	林 奉権		2006
免疫学的加齢と細胞内活性酸素産生への放射線影響の研究	林 奉権		林 幾江 (広島大学)	2006
原爆被爆者における肺、大腸および乳がんの研究	濱谷 清裕	多賀 正尊 伊藤 玲子 中地 敬 (放影研顧問およびプロジェクト代表研究者)	安井 弥 (広島大学) 江口 英孝 (埼玉医科大学)	2004
原爆被爆者における胃がんの研究	安井 弥 (広島大学)	濱谷 清裕 多賀 正尊 伊藤 玲子 中地 敬 (放影研顧問およびプロジェクト代表研究者)		2006

平成 21 年度 共同研究一覧表 (外部資金研究以外)

研究のタイトル	共同研究のグループのチーフ	放影研における研究者	放影研以外の研究者	開始年
放射線生物学／分子疫学部 末梢リンパ球を用いた放射線誘発遺伝的不安定性の機序に関する研究	本間 正充 (国立医薬品食品衛生研究所)	楠 洋一郎		2008
散発性胃がんの臨床および分子病理学的解析	安井 弥 (広島大学)	伊藤 玲子 中地 敬 (放影研顧問およびブ ロジェクト代表研究者)		2004
放影研症例研究のための新規統計モデルの開発	和泉 志津恵 (大分大学)	中地 敬 (放影研顧問およびブ ロジェクト代表研究者) 古川 恭治 (統計部)		2006
免疫指標と遺伝的背景要因の関係の研究	楠 洋一郎	林 奉権 中地 敬 (放影研顧問およびブ ロジェクト代表研究者)	京泉 誠之 (安田女子大学)	2005
原爆被爆者における甲状腺がんの研究 (長崎)	濱谷 清裕	早田 みどり (長崎疫学部)	中島 正洋 (長崎大学) 関根 一郎 (長崎大学) ほか	2005
散発性胃がんにおける炎症性サイトカインの役割	菅沼 雅美 (埼玉県立がんセン ター)	今井 一枝 林 奉権 中地 敬 (放影研顧問およびブ ロジェクト代表研究者)		2006
原爆被爆者の肺がんの分子疫学的特徴の研究	中地 敬 (放影研顧問およびブ ロジェクト代表研究者)	濱谷 清裕 多賀 正尊 伊藤 玲子	Harris CC (米国立がん研究所) 安井 弥 (広島大学) 田原 榮一 (広島がんセミナー)	2004
多民族コホートにおける遺伝的発がん感受性	Henderson BE (米国南カリフォ ルニア大学)	中地 敬 (放影研顧問およびブ ロジェクト代表研究者) 今井 一枝 林 奉権		2005
アジア太平洋地域における心血管疾患の共同コ ホート研究	Asian Pacific Cohort Studies Collaboration (オーストラリ ア、ジョージ国際健康研究所)	中地 敬 (放影研顧問およびブ ロジェクト代表研究者) 今井 一枝		1996

平成 21 年度 共同研究一覧表 (外部資金研究以外)

研究のタイトル	共同研究のグループのチーフ	放影研における研究者	放影研以外の研究者	開始年
放射線生物学／分子疫学部 炎症、自然免疫関連遺伝子と大腸がん	Marchand LL (米国ハワイガン 研究センター)	中地 敬 (放影研顧問およびブ ロジェクト代表研究者) 林 奉権 楠 洋一郎 今井 一枝		2006
ドイツ人および日本人に発生した乳がんの細胞 遺伝学的・分子疫学的差異	Brandt B (ドイツ、ミュンスター 大学)	中地 敬 (放影研顧問およびブ ロジェクト代表研究者) 今井 一枝		1998
幹細胞への放射線および薬物影響の生物学	林 奉権	中地 敬 (放影研顧問およびブ ロジェクト代表研究者)	Trosko JE (米国ミシガン州立大学) Chang CC (米国ミシガン州立大学) 林 幾江 (広島大学)	2002
ゲノムデータの統計学的解析方法の評価	今井 一枝	中地 敬 (放影研顧問およびブ ロジェクト代表研究者) Cologne JB (統計部)	Victor A (ドイツ、マインツ大学)	2006
甲状腺腫瘍の分子解析	武市 宣雄 (武市クリニック)	濱谷 清裕 中地 敬 (放影研顧問およびブ ロジェクト代表研究者)		2008
疫学部 (広島) 原子力発電施設等放射線業務従事者にかかわる 疫学的調査	巽 紘一 (放射線影響協会)	清水 由紀子 (非常勤研究員)	西 信雄 (国立健康・栄養研究所) 秋葉 澄伯 (鹿児島大学) 吉村 健清 (福岡県保健環境研究所) 祖父江 友孝 (国立がんセンター) 吉本 泰彦 (放射線医学総合研究所) 丹後 俊郎 (国立保健医療科学院)	1995
日本におけるトトロトラスト患者と原爆被爆者の 肝がんリスクの比較	森 武三郎 (放射線医学総合研 究所)	清水 由紀子 (非常勤研究員) Cologne JB (統計部) Cullings HM (統計部) 徳岡 昭治 (放影研顧問)		2001
放射線防護基準に関する疫学研究のタスクグルー プ	秋葉 澄伯 (鹿児島大学)	笠置 文善	吉永 信治 (放射線医学総合研究所) 水野 正一 (国立健康・栄養研究所) 笹川 澄子 (環境科学技術研究所) 岩崎 利泰 (電力中央研究所)	2005

平成 21 年度 共同研究一覧表 (外部資金研究以外)

研究のタイトル	共同研究のグループのチーフ	放影研における研究者	放影研以外の研究者	開始年
疫学部 (広島) 原爆被爆者における放射線被曝と第二原発がん リスクの関連	Li CI (米国ワシントン大学)	杉山 裕美 早田 みどり (長崎疫学部) 坂田 律 林 美希子 笠置 文善 陶山 昭彦 (長崎疫学部)	西 信雄 (国立健康・栄養研究所) 馬淵 清彦 (米国国立がん研究所) Davis S (米国ワシントン大学) Kopecky KJ (米国ワシントン大学)	2006
原爆被爆者における放射線治療と第二原発がん リスクの関連	吉永 信治 (放射線医学総合研 究所)	笠置 文善 早田 みどり (長崎疫学部) 森脇 宏子 Hsu WL (統計部) 飛田 あゆみ (長崎臨床研究部) 山田 美智子 (臨床研究部) 片山 博昭 (情報技術部) 藤原 佐枝子 (臨床研究部) 赤星 正純 (長崎臨床研究部) 陶山 昭彦 (長崎疫学部)	西 信雄 (国立健康・栄養研究所) 赤羽 恵一 (放射線医学総合研究所) 土居 主尚 (放射線医学総合研究所) 島田 義也 (放射線医学総合研究所)	2007
日本における喫煙、禁煙の健康影響の研究	Darby S (英国オックスフォード 大学)	坂田 律 Grant EJ 杉山 裕美 早田 みどり (長崎疫学部) 清水 由紀子 (非常勤研究員) 立川 佳美 (臨床研究部) 山田 美智子 (臨床研究部) 森脇 宏子 笠置 文善 陶山 昭彦 (長崎疫学部) Geyer S (統計部) 児玉 和紀 (主席研究員)	McGale P (英国オックスフォード大学) 西 信雄 (国立健康・栄養研究所) Boreham J (英国オックスフォード大学) Peto R (英国オックスフォード大学)	2007
インフルエンザに伴う随伴症状の発現状況に関 する調査研究	廣田 良夫 (大阪市立大学)	小笹 晃太郎		2007

平成 21 年度 共同研究一覧表 (外部資金研究以外)

研究のタイトル	共同研究のグループのチーフ	放影研における研究者	放影研以外の研究者	開始年
疫学部 (広島) 寿命調査 (LSS) 集団における結腸がん罹患率への放射線の影響に対する身体計測値の交絡あるいは交互作用	Semmens E (米国ワシントン大学)	Grant EJ 杉山 裕美 森脇 宏子 坂田 律 早田 みどり (長崎疫学部) 笠置 文善 山田 美智子 (臨床研究部) 藤原 佐枝子 (臨床研究部) 赤星 正純 (長崎臨床研究部) 児玉 和紀 (主席研究員)	西 信雄 (国立健康・栄養研究所) Li CI (米国ワシントン大学) Davis S (米国ワシントン大学) Kopecky KJ (米国ワシントン大学) 馬淵 清彦 (米国国立がん研究所)	2008
食道がんと胃がん：広島と長崎におけるリスクの傾向と予測因子	Kennedy BS (米国ジョージタウン大学)	Grant EJ 笠置 文善 陶山 昭彦 (長崎疫学部) 清水 由紀子 (非常勤研究員) 杉山 裕美 早田 みどり (長崎疫学部) 坂田 律 Ross NP (統計部) Cologne JB (統計部) Cullings HM (統計部) 山田 美智子 (臨床研究部)	馬淵 清彦 (米国国立がん研究所) Chow WH (米国国立がん研究所) 西 信雄 (国立健康・栄養研究所)	2008
原発被爆者における初潮および初回出産の時期と乳がんリスクの関係	McDougall J (米国ワシントン大学)	Grant EJ 坂田 律 杉山 裕美 早田 みどり (長崎疫学部) 清水 由紀子 (非常勤研究員) 立川 佳美 (臨床研究部) 笠置 文善 陶山 昭彦 (長崎疫学部) Ross NP (統計部)	Davis S (米国ワシントン大学) 西 信雄 (国立健康・栄養研究所) Kopecky KJ (米国ワシントン大学) Li CI (米国ワシントン大学)	2008

平成 21 年度 共同研究一覧表 (外部資金研究以外)

研究のタイトル	共同研究のグループのチーフ	放射線における研究者	放射線以外の研究者	開始年
疫学部 (広島) 原爆被爆者における放射線被曝と腎疾患との関連性	Adams MJ (米国ロチェスター大学)	Grant EJ 見玉 和紀 (主席研究員) 清水 由紀子 (非常勤研究員) 笠置 文善 陶山 昭彦 (長崎疫学部) 坂田 律 藤原 佐枝子 (臨床研究部) 赤星 正純 (長崎臨床研究部)		2008
放射線に関連した甲状腺がんの第 2 回共同解析	坂田 律	Shore RE (副理事長兼研究担当理事)	Ron E (米国国立がん研究所) Veiga L (米国国立がん研究所) Lubin J (米国国立がん研究所)	2008
疫学部 (長崎) 原爆被爆者における放射線被曝と第二原発がんリスクの関連	Li CI (米国ワシントン大学)	陶山 昭彦 早田 みどり		2006
長崎原爆被爆者に発生した病理組織学的診断根拠のある多重がん症例の同定	中島 正洋 (長崎大学)	陶山 昭彦 早田 みどり		2007
白血病および関連疾患の探知調査	朝永 万左男 (日本赤十字社長崎原爆病院)	Hsu WL (統計部) 陶山 昭彦 早田 みどり	岩永 正子 (活水女子大学) Preston DL (米国ヒロソフト・インターナショナル)	1960
長崎県がん登録に基づく放射線治療環境と患者予後についての研究	大野 ゆう子 (大阪大学)	陶山 昭彦 早田 みどり		2008
長崎県がん登録に基づく患者受療動態から見た医療圏の研究	大野 ゆう子 (大阪大学)	陶山 昭彦 早田 みどり		2008
長崎県の小児がん患者における治療医療機関の集中化と生存率についての検討	大野 ゆう子 (大阪大学)	陶山 昭彦 早田 みどり		2008
統計部 原爆被爆者のデータにおける染色体異常、放射線の初期影響および後影響に関する同時解析	Stram D (米国南カリフォルニア大学)	Cologne JB Cullings HM 古川 恭治 三角 宗近		2007

平成 21 年度 共同研究一覧表 (外部資金研究以外)

研究のタイトル	共同研究のグループのチーフ	放影研における研究者	放影研以外の研究者	開始年
統計部 競合する放射線関連死因による生涯リスクおよび寿命損失の推定	Vaeth M (デンマーク、アース大学)	Cologne JB		2006
コホート内疫学研究の抽出についてのデザインおよび検出力	Cologne JB	Cullings HM	和泉 志津恵 (大分大学) 藤井 良宣 (宮崎大学) Langholz B (米国南カリフォルニア大学)	2002
がんリスクの機序モデル	Dekkers F (オランダ国立公衆衛生環境研究所) Bijwaard H (オランダ国立公衆衛生環境研究所)	Hsu WL		2007
がんリスクの機序モデル	Kaiser JC (ドイツ国立環境保健研究所)	Cullings HM		2008
消化管がんに関する分子学的研究 (DNA メチル化等)	松原 長秀 (岡山大学)	Cullings HM		2004
トコロラスト投与患者と日本の原爆被爆者における肝がんリスクの比較	森 武三郎 (放射線医学総合研究所)	Cullings HM Cologne JB 清水 由紀子 (疫学部非常勤研究員)		2005
放射線、高血圧および心臓病による死亡のための因果モデル	Kopecky KJ (米国ワシントン大学)	Hsu WL	Williams L (米国ワシントン大学)	2006
放射線量のエラー評価とリスク推定値の調整を目的とする操作変数を用いた手法の開発	Carter R (米国バッドファロー大学)	Cullings HM Cologne JB		2007
胎内被爆者または若年被爆者におけるがん罹患率のリスク評価	Preston DL (米国ヒロソフト・インターナショナル)	Cullings HM 児玉 和紀 (主席研究員) 陶山 昭彦 (長崎疫学部) 早田 みどり (長崎疫学部) Shore RE (副理事長兼研究担当理事)		2007

平成 21 年度 共同研究一覧表 (外部資金研究以外)

研究のタイトル	共同研究のグループのチーフ	放影研における研究者	放影研以外の研究者	開始年
統計部 歯エナメル質 ESR 測定値の遮蔽カーマと臓器線量への換算のための特殊モンテカルロ計算法	中村 典 (主席研究員) Egbert S (米国サイエンス・アプリケーションズ・インターナショナル)	Cullings HM	Wieser A (ドイツ国立環境衛生研究センター)	2007
スペクトルデコンボリューション、新手法および新情報を用いた、放影研の歯の ESR 測定データの更新	中村 典 (主席研究員) Egbert S (米国サイエンス・アプリケーションズ・インターナショナル)	Cullings HM	Wieser A (ドイツ国立環境衛生研究センター)	2007
個々のデータを用了いたリスク評価のベイズ的アプローチ	Little MP (英国インペリアル・カレッジ)	Cullings HM 古川 恭治 ほか		2007
リスク評価の地理空間—時間的アプローチ	Patil GP (米国ペンシルベニア州立大学)	Cullings HM 古川 恭治 ほか	Lawson A (米国サウスカロライナ大学) Jacquez G (米国バイオメドウェア株式会社)	2007
放射線被曝およびバイオマーカーのための関数法	Wang CY (米国フレッドハッチンソンがん研究センター)	Cullings HM		2007
ISS コホートにおける白血病、リンパ腫と多発性骨髄腫の罹患率：1950-2001 年	Preston DL (米国ヒロソフト・インターナショナル)	Hsu WL 早田 みどり (長崎疫学部) 陶山 昭彦 (長崎疫学部) 笠置 文善 (疫学部) 船本 幸代		2004
放射線、炎症および特定の放射線・炎症誘発健康影響に対する因果モデルの適用	角間 辰之 (久留米大学)	Hsu WL 中島 栄二 古川 恭治 坂田 律 (疫学部) 鎌石 和男 (臨床研究部) 高橋 郁乃 (臨床研究部) 山田 美智子 (臨床研究部) 藤原 佐枝子 (臨床研究部) 杉山 裕美 (疫学部) 笠置 文善 (疫学部)		2007
タイルおよび煉瓦へのガンマ線量の熱ルミネセンス測定	丸山 隆司 (放射線医学総合研究所)	Cullings HM		1999

平成 21 年度 共同研究一覧表 (外部資金研究以外)

研究のタイトル	共同研究のグループのチーフ	放影研における研究者	放影研以外の研究者	開始年
統計部 チェルノブイリ事故後の甲状腺がんと甲状腺疾患の有病率 のためのコホートにおける甲状腺機能亢進症の有病率	Hatch M (米国立がん研究所)	古川 恭治		2009
米国における成人甲状腺機能亢進症のための放射ヨウ素治療のがん死亡率への関連	Ron E (米国立がん研究所)	古川 恭治		2009
原発被爆者における放射線被曝と喫煙の肺がんリスクへの相互効果	Preston DL (米国ヒロソフト・インターナショナル)	古川 恭治 船本 幸代 徳岡 昭治 (放影研顧問) ほか		2006
LSS 集団における甲状腺腫瘍発生率の調査	馬淵 清彦 (米国立がん研究所)	古川 恭治 船本 幸代 坂田 律 (疫学部) 徳岡 昭治 (放影研顧問) ほか		2009
AHS 集団における動脈硬化の研究 (第 1 部: 動脈硬化性指標を用いた検討)	藤原佐枝子 (臨床研究部)	高橋 郁乃 (臨床研究部) 山田 美智子 (臨床研究部) 飛田 あゆみ (長崎臨床研究部) 赤星 正純 (長崎臨床研究部) Hsu WL 三角 宗近	高橋 哲也 (広島大学病院) 木原 泰樹 (広島大学病院) 松本 正泰 (広島大学病院)	2009
セミパラメトリック生存外挿法: 放影研のコホートをを用いたモデルの検証	方 啓泰 (台湾大学疫学研究部)	Hsu WL 古川 恭治 Cullings HM 笠置 文善 (疫学部) 早田 みどり (長崎疫学部) 陶山 昭彦 (長崎疫学部) 小笹 晃太郎 (疫学部)	王 榮徳 (台湾大学公衆衛生学院) 黄 景祥 (台湾中央研究院)	2009
AHS 集団における放射線、炎症、白内障手術への因果モデルの応用	角間 辰之 (久留米大学) Hsu WL	中島 栄二 鎌石 和男 (臨床研究部)	荒木 由布子 (久留米大学)	2009
長期体重変動とがんおよび心血管疾患罹患および死亡に関するコホート研究	南里 明子 (国立国際医療センター 研究所) 溝上 哲也 (国立国際医療センター 研究所)	赤星 正純 (長崎臨床研究部) 早田 みどり (長崎疫学部) Cologne JB	荒木 由布子 (久留米大学)	2009

平成 21 年度 共同研究一覧表 (外部資金研究以外)

研究のタイトル	共同研究のグループのチーフ	放影研における研究者	放影研以外の研究者	開始年
統計部 コホート内症例対照調査における放射線と中間リスク因子の同時効果に関する評価方法	Cologne JB	古川 恭治 Hsu WL Grant EJ (疫学部) 大石 和佳 (臨床研究部) 鎌石 和男 (臨床研究部) 藤原 佐枝子 (臨床研究部) 中地 敬 (放影研顧問およびプロジェクト代表研究者) Cullings HM	Langholz B (米国南カリフォルニア大学) 藤井 良宜 (宮崎大学) 和泉 志津恵 (大分大学) Kopecky KJ (米国 ワシントン大学)	2008
臨床分野および分子遺伝学分野におけるコンサルティング・共同研究：公衆衛生やリスク評価・臨床研究・ゲノム研究に関するバイオ統計についての講義	清水 憲二 (岡山大学)	Cologne JB		2009
日本人原爆被爆者集団における乳がんおよび子宮内膜がんのネステイッド症例対照研究	練石 和男 (臨床研究部)	Cologne JB Grant EJ (疫学部) 中地 敬 (放影研顧問およびプロジェクト代表研究者) (ほか)	Berrington A (米国立がん研究所) Sharp GB (米国立アレルギー・感染症研究所) Stevens RG (米国コネチカット大学衛生センター)	2002
腹囲の推定可能性とメタボリック症候群のリスク解析への応用	中村 剛 (長崎大学)	早田 みどり (長崎疫学部) 赤星 正純 (長崎臨床研究部) Cullings HM 中島 栄二 三角 宗近 市丸 晋一郎 (長崎臨床研究部)	石田 紀子 (株式会社ピーシーエル)	2008
急性放射線被曝後のがんリスク推定：中性子線量の影響とリスク係数のノンパラメトリック解析	Kaiser JC (ドイツ国立環境保健研究所)	Cullings HM	Jacob P (ドイツ国立環境保健研究所) Rühm W (ドイツ、ミュンヘン大学／国立環境保健研究所) Walsh L (ドイツ放射線防護連邦局)	2008
急性放射線被曝後のがんリスク推定：リスク推定値への放射線生物学的効果の影響	Kaiser JC (ドイツ国立環境保健研究所)	Cullings HM	Eidemüller M (ドイツ国立環境保健研究所) Jacob P (ドイツ国立環境保健研究所)	2008

平成 21 年度 共同研究一覧表（外部資金研究以外）

研究のタイトル	共同研究のグループのチーフ	放影研における研究者	放影研以外の研究者	開始年
情報技術部 ヒト遺伝子解析用データベースの構築とユーズ・インタフェースの開発、およびディクショナリーシステムの構築に関する共同研究 地域がん登録システムに関する技術協力 セミパラチンスク実験場における健康影響調査および線量測定 三次被ばく緊急医療	Slezak T (米国ローレンスリバモア国立研究所) 津熊 秀明 (大阪府立成人病センター) 星 正治 (広島大学原爆放射線医科学研究所) 神谷 研二 (広島大学緊急被ばく医療推進センター)	片山 博昭 片山 博昭 片山 博昭 片山 博昭		1996 2005 2005 2005

国際協力活動

放影研役職員の国際協力関係活動への参加

(学会出席は除く)

1. 在北米被爆者健診事業への協力

この事業は1977年から2年に一度行われてきたもので、前回の2007年度から国の在外被爆者支援事業に組み入れられ、国から広島県への委託事業となり、広島県から広島県医師会に委託される形となった。17回目となる2009年度の健診事業は、第1班が9月16日から30日までロサンゼルスとホノルルを、第2班が10月7日から21日までサンフランシスコとシアトルを訪問し、放影研から医師2人と事務担当者2人が参加した。健診団の第1班には大石和佳臨床研究部臨床検査科長と小田崇志疫学部原簿管理課副主査が、第2班には小笹晃太郎疫学部長と渡辺忠章疫学部次長が参加した。

2. 在韓被爆者健康相談事業への協力

この事業は長崎県と長崎市が国の在外被爆者支援事業の一環として、在韓被爆者の健康相談と指導を行うため2004年度から始めたもので、2009年度は2回(9回目および10回目)韓国に医師団を派遣した。放影研からは長崎臨床研究部の赤星正純部長が医師団に参加、9月6日から11日まで韓国陝川郡で、2010年1月31日から2月6日まで釜山で被爆者の健康相談と指導を行った。

3. 在外被爆者に関するその他の活動

片山博昭情報技術部長、立川佳美臨床研究部研究員が2009年11月1日から6日まで、米国シアトルとカナダのバンクーバーで海外被爆者生活環境調査を実施した。

4. セミパラチンスク関係協力

広島大学原爆放射線医科学研究所との共同研究に関して、片山博昭情報技術部長が、研究打ち合わせならびに情報収集のため、2009年8月28日から9月2日まで、および2010年3月12日から16日までの2回、セミパラチンスクのカザフスタン放射線医学環境研究所を訪問した。

また、放射線影響協会の支援で、大久保利晃理事長が2010年3月12日に東京で開催されたセミパラチンスク健康影響調査委員会に出席した。

5. 国際原子力機関(IAEA)との協力

大久保利晃理事長が2009年10月22日にオーストリア、ウィーンのIAEA本部を訪問し、幹部職員、放射線医療専

門家を対象に講演した。

また、児玉喜明遺伝学部部長代理が11月1日から8日までウィーンを訪問し、IAEA本部で開催された「放射線緊急時におけるバイオドシメトリー適用についてのマニュアル草稿の検討会議」に出席した。

6. 国際放射線防護委員会(ICRP)関連

Roy E. Shore 副理事長・研究担当理事が、2009年7月16日に米国メリーランド州ベセスダで開催されたICRP線量率効果係数(ICRP-DDREF)会議に出席した。

また、放射線影響協会の支援を受けて中村典主席研究員が、11月8-12日にポルトガルのポルトで開催されたICRP第一委員会に出席した。

7. 国際連合原子放射線影響科学委員会(UNSCEAR)関連

児玉和紀主席研究員が、2010年1月29日に東京で開催された公開シンポジウム「UNSCEARの最新動向と放射線防護研究の展望」に招待演者として出席した。

また、児玉主席研究員は原子力安全委員会の支援の下、3月1日に東京で開催されたUNSCEAR国内対応委員会に出席した。

8. その他の国際協力活動

Roy E. Shore 副理事長・研究担当理事と児玉和紀主席研究員が2009年9月3日に千葉の放射線医学総合研究所で開催された「第5回放射線防護システムの発展に関するアジア地域会合」に出席した。

海外からの視察・研修などの受け入れ

2009年度総計165人(一般見学者は除く)

【広島148人】

放射線被爆者医療国際協力推進協議会(HICARE)関係受け入れ(14人)

1) 韓国関係(12人)

2009年7月16日 在韓国被爆者医療短期研修団4人。
2009年10月29日 韓国放射線被爆者医療研修団8人。

2) その他(2人)

2009年5月26日 ベラルーシ、ブレスト地区内分泌診療所から医師1人。2009年7月24日 モンゴル健康科学大学医学部から研修医1人。

国際協力機構（JICA）関係受け入れ（34 人）**1) 結核予防会結核研究所**

2009 年 7 月 8 日 アフガニスタン、カンボジア、コンゴ民主共和国、ハイチ、レソト、マラウイ、ミャンマー、パプアニューギニア、フィリピン、南アフリカ共和国、ザンビア、ジンバブエ、インドネシアから「2009 年度ストップ結核アクションコース」研修生 16 人。

2009 年 11 月 4 日 バングラデシュ、カンボジア、中華人民共和国、エチオピア、モンゴル、フィリピン、インドネシアから 2009 年度 JICA 集団研修「DOTS 拡大のための結核菌検査コース」研修生 8 人。

2) 国立がんセンター

2009 年 10 月 30 日 アルバニア、アルゼンチン、スリランカ、ウルグアイから 2009 年度 JICA 集団研修「最新のがんの診断と治療」研修生 7 人。

3) 国立循環器病センター

2009 年 11 月 6 日 アルバニア、アルゼンチン、イラクから「2009 年度循環器病対策コース」研修生 3 人。

放影研推薦による HICARE 関係受け入れ（2 人）

2009 年 9 月 7 日－11 月 6 日 ロシア医科学アカデミー放射線医学研究センターから大学院生 1 人およびラトビア、リガストラディン大学から研究員 1 人が放射線生物学／分子疫学部免疫学研究室で研修。

放影研独自プログラムによる受け入れ（3 人）

2009 年 9 月 12－18 日 米国ワシントン大学公衆衛生・地域医療科学学部から学生 2 人が疫学部で研修。2009 年 11 月 16 日－12 月 18 日 韓国国立がんセンターから研究員 1 人が放射線生物学／分子疫学部免疫学研究室で研修。

文部科学省関係受け入れ（8 人）

2009 年 11 月 16 日 名古屋大学大学院医学系研究科医療行政コースの一環として、ベトナム、モンゴル、キルギス、ウズベキスタン、カンボジア、タイ、ラオスから「2009 年度ヤング・リーダーズプログラム」研修生 8 人。

その他（87 人）

2009 年 4 月 14 日 オーストラリア、メルボルン大学眼科研究センター網膜評価室臨床・研究フェロー／評価センター管理者、ほか 1 人。2009 年 6 月 25 日 スロベニア、ルブリャナ大学医学部学生 1 人。2009 年 8 月 22 日 核戦争防止国際医師会議（IPPNW）北アジア・南アジア合同地域会議出席者のうち中国、インド、パキスタンなどの医師 28

人。2009 年 10 月 6 日 欧州記者フェローシップ計画（社団法人日本新聞協会と欧州ジャーナリズム・センターとの記者交流計画）により招聘されたドイツ、イタリア、ポーランド、ポルトガルの記者 4 人。2009 年 11 月 23 日 オランダ、Twente 大学医学部学生 28 人および教員 3 人（原爆資料館において放影研主席研究員が原爆放射線の健康影響について講演）。2009 年 11 月 26 日 イラン、Society for CW Victims Support の医師 7 人。2010 年 1 月 21 日 韓国泰安郡保健医療院・泰安環境保健センター院長、ほか 10 人。2010 年 1 月 29 日 米国プロビデンス・リトルカンパニー・オブ・メアリー医療センターから事業開発部長。2010 年 2 月 19 日 ブラジル、サンタクルース病院から医師 1 人、サンパウロ日伯援護協会日伯友好病院から医師 1 人。

【長崎 17 人】**長崎・ヒバクシャ医療国際協力会（NASHIM）関係受け入れ（6 人）****1) カザフスタン関係（5 人）**

2009 年 7 月 30 日 カザフスタンから医師 5 人。

2) 2009 年度 NASHIM 夏期研修（疫学研修）（1 人）

2009 年 8 月 11 日 ウクライナ医学アカデミー放射線医学研究所上級研究員 1 人。

JICA 関係受け入れ（6 人）

2010 年 2 月 19 日 カンボジア、ケニア、ウガンダ、ドミニカ共和国から、JICA 集団研修「医療技術スタッフ練成コース」研修生 6 人。

世界保健機関（WHO）関係受け入れ（2 人）

2009 年 6 月 12 日 アルゼンチンから WHO 放射線・環境衛生プログラム専門官 1 人。2010 年 3 月 3 日 ドイツ、ブレーメン大学予防医学・社会医学研究所から WHO 国際ラドン安全ガイドライン策定責任者 1 人。

その他（3 人）

2009 年 5 月 12 日 スイスから医師 1 人。2009 年 5 月 14 日 米国から作家 1 人、研究者 1 人。

長期研修者リスト（1 カ月以上）**2009 年 9 月 7 日－11 月 6 日**

Liga Larmane ラトビア、リガストラディン大学研究員

Oleg Kovalev ロシア医科学アカデミー放射線医学研究センター大学院生

放射線生物学／分子疫学部免疫学研究室において、免疫機能に対する放射線被曝の影響について、特に細胞内活性酸素測定法および遺伝的不安定性を調べる方法を用いた研究について研修

2009 年 11 月 16 日－12 月 18 日

Se Byeong Lee 韓国国立がんセンター研究員

放射線生物学／分子疫学部免疫学研究室において、放射線と制がん剤による細胞死誘導機構について正常細胞と腫瘍細胞株を用いた研究、ならびに免疫機能に対する放射線被曝の影響に関する研究について研修